



1月31日の初登庁日は、市の幹部職員を前に訓示を述べました



今後のまちづくりや各部局の懸案課題について意見交換をしました



# 誰もが生き活 き生活し 活躍 できるまちに



第21代久留米市長  
**原口 新五**

昭和35(1960)年4月生まれ。61歳。平成元年に久留米市議会議員に初当選。趣味は、ゴルフ、テニス、愛犬との散歩。諏訪野町在住

**安定して暮らせてこそ**  
久留米市は、4年連続で甚大な大雨災害に見舞われ、農業関係者を始め、多くの皆さんが被害に遭われています。それに加え、出口

**産業を伸ばし活力をつける**  
新型コロナウイルスの影響を受けた地域経済を回復させるため、企業の支援やバイオ産業など、多様な地域産業の創出を図ります。新産業団地の整備や企業誘致を進めて、生活の基盤となる雇用の場を確保します。県内トップの農業都市久留米の強みを生かして、付加価値の高い6次産業の推進や担い手の育成・確保に努めます。

**人権を守り共に生きる**  
女性や子ども、障害者など全ての人の人権が守られ、誰もが活躍できる共生のまちを目指します。女性が活躍する地域社会づくりや子育て支援、教育、医療、福祉を充実させます。芸術家やスポーツ選手など多くの著名人を輩出したこの地から、スポーツ、文化、芸術をさらに振興させ、新たな人材の育成・発掘も進めます。

◎総合政策課 (0942・30・9112、FAX 0942・30・9703)

の见えない新型コロナウイルス感染症との闘いで、ストレスや不安を抱えながら生活を送っています。久留米市が、生き活きと生活できる地域であり続けるためには、雇用の場や生活インフラの整備、充実した子育てや教育環境などの都市機能を強化することが大切です。まちを伸ばし、暮らしを守りながら、誰もが安定して暮らせるように「安心・安全のまち」「活力のあるまち」「生き活き生活できる、活躍できる共生のまち」を視点に、まちづくりに取り組みます。

**最優先すべきは安心・安全**  
長期化する新型コロナウイルス感染症や多発する自然災害から皆さんの生命・健康・財産を守ることを、最優先に取り組みます。市民の健康や衛生を守る保健所を強化し、効果的・効果的に運営していきます。毎年発生する浸水被害の軽減に向け、国や県と連携した貯留施設の整備や排水機場のポンプ増設、流域治水推進プロジェクトの設置など、防災機能を強化します。

3月議会ココがポイント

## コロナ・防災 喫緊の課題から着手

2月25日から第2回市議会が開会しました。4月から6月までの暫定予算を審議する予算審査特別委員会も開催。3カ月のつなぎ予算のため、市民生活に必要な公共サービスの維持経費が主ですが、喫緊の課題である新型コロナウイルス対策や防災・減災対策など602億8千万円を計上しています。濃厚接触者のPCR検査費用や浸水対策のフラップゲートの整備、AI防災チャットボットの本格導入などが主なものです。



試験導入したAI防災チャットボット。地図上で現場写真などを確認できます